

平成 27 年 7 月 23 日

名古屋市政記者クラブ  
各報道機関 様

志段味の自然と歴史に親しむ会

代表世話人 野田輝己

世話人 高木傭太郎 櫻井隆司

玉岡悟司 犬塚康博

名古屋市守山区中志段味天白・元屋敷遺跡に関するお願い

天白・元屋敷遺跡につきましては、昨年 10 月 20 日に不法造成、無届破壊という問題が報道されまして以降、取り上げていただく機会があり、各報道機関の皆様には感謝申し上げます。30 年来、志段味・吉根地域の自然や歴史・文化に関わる活動を続けています本会といたしましても、その後たびたび名古屋市長、名古屋市教育長にあてて質問や要望を提出し、その都度各報道機関の皆様にも、関連した資料をお届けさせていただいています。

現在の天白・元屋敷遺跡は、調整池計画地における発掘調査が 6 月いっぱいまで完了した後、7 月初めにブルドーザー、パワーシャベルがこの区域に入って、検出遺構をほぼ全面的に削平し破壊する工事が進められました。その結果、私たちが求めていた発掘調査区域を含む全面的な遺跡の保存は、事実上できない状況となってしまいました。私たちの力及ばざる結果ではありますが、なお天白・元屋敷遺跡には遺跡として残存する区域があり、遺跡破壊へ導き莫大な発掘調査費用がかかることになった責任の問題、調整池がかかえる問題、志段味のイメージを払拭する歴史のまちづくりの課題が未解決のまま存在しています。

今後、名古屋市としては天白・元屋敷遺跡の発掘調査の成果の証として、またこうしたケースの破壊を今後未然に防ぐうえでも、その顕彰となるものが遺跡現地に必要であるとして、引き続き遺跡の保存活用を求めていく所存であります。

当面、先にあげたような検出遺構の破壊について、名古屋市の関係機関に抗議を行うとともに、新たに㊟として添付しましたような内容で質問書を、名古屋市長、名古屋市教育長に提出いたしました。天白・元屋敷遺跡の問題はまだ終わっていない、これからも課題を解決することが必要な遺跡であると私たちは考えています。今後も、報道機関の皆様のお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

]

連絡先（代表世話人野田輝己）

〒463-0002 名古屋市守山区中志段味沢田 777 野田農場

携帯：090-8073-6476 TEL：052-736-3205 E-mail：[nonten\\_ij@yahoo.co.jp](mailto:nonten_ij@yahoo.co.jp)

志段味の自然と歴史に親しむ会ホームページ <http://shitashimu.shidami.nagoya/>

## 簡単な経緯の概略の説明を添えさせていただきます

この遺跡については昨年10月20日に「不法造成で遺跡を破棄」と新聞報道され、問題が表面化しました。3年前に私たちの会員より名古屋市教育委員会文化財保護室に善処をもとめ、その後発掘調査が始まったいきさつがあります。当時十分な保存を求める活動ができなかったことや、その後の発掘調査で貴重な遺跡であることが明確になってきたことで、名古屋市長にあてて事実経緯、破壊責任の明確化、発掘調査成果の公開、遺跡の保存・活用方法などの質問書を提出しました。しかし、残念ながら十分な回答は得られませんでした。

その後、文化財保護室とも話合いをもち、まず遺跡を市民や研究者に公開することを強く求めました。その結果、今年1月になって、やっと発掘調査現場で現地見学会と遺跡説明会が開かれましたが、遺跡の重要性についての議論には至っていません。

私たちの会は名古屋歴史科学研究会とともに、遺跡について議論する場として2回のシンポジウムを開催しました。また、名古屋市教育委員会教育長にも遺跡の全面保存と活用を求める要望書を出し、あわせて県教育委員会や文化庁にも善処を求める要望書を出しました。3月のシンポジウム以降、賛同者を集める活動も行っており、再度名古屋市長と教育長にあてて賛同者名簿を付けて要望書を提出しています。

6月13日には発掘現場で2回目の現地見学会が開かれました。記者発表など行って広く市民に公開されるべきであるにも関わらず、文化財保護行政をあずかる文化財保護室の姿勢は極めて消極的と言わざるを得ません。見学会の開催に名を連ねることもなく、6月9日から名古屋市博物館で天白・元屋敷遺跡の展示が行われている「発掘された名古屋」のチラシすら見学会に訪れた300人近い人たちに配布していませんでした。

## 天白・元屋敷遺跡はどういう遺跡か

天白・元屋敷遺跡は名古屋市文化財調査委員会からその重要性が指摘されていました。遺跡破壊残土の遺物回収作業や、その後の発掘調査で、古代・中世を通じて庄内川の交通や物流の要として川湊が築かれ、古代の郡津や水野氏による志段味城が置かれた場所の可能性もでてきました。さらに古墳時代前期の遺構も検出されているところから、現在国指定となり「歴史の里」として事業推進されている「志段味古墳群」の築造にも深くかかわる遺跡である可能性も高くなっています。

## 遺跡破壊へ導き莫大な発掘調査費用がかかることになった責任

もともとこの地域では遺跡を壊すことなく盛土することで区画整理事業の認可を受けていました。ところが、当時の名古屋市住宅都市局志段味総合整備推進室や事業事務を受託する財団法人名古屋都市整備公社（現財団法人名古屋まちづくり公社）は、事業変更手続きをとることなく掘削工事を断行し、届出のないまま遺跡を破壊することになりました。正規の手続きさえ踏まえていれば、何億とかかる発掘調査の経費が試算された

段階で、工事の再検討も可能であったはずですが、結果として中志段味特定土地地区画整理組合がすべて負担して発掘調査が行われていますし、今後も工事に関連した発掘調査が必要となります。事の経緯からして、市には監督義務が、公社に適正な事務手続き遂行の義務があったはずなのに、どう責任をとったのか疑問が残るところです。このあたりを、今回名古屋市長に質問しています。

## 調整池がかかえる問題

この6月までの発掘調査は、調整池造成に先立っておこなわれていたものです。すでに発掘調査後の整備で、遺構部分は削平されてしまっていますが、更に根こそぎ掘り下げられて、コンクリートで底から側面を固め、フェンスが取り囲む巨大な殺伐とした空間が広がります。普段は水が引き時々雨水が溜まる場所に、やがて背丈の高い雑草が生える光景が見られるのが一般の調整池の姿です。

都市部では地下に雨水処理施設が設けられ、地上部は別の利用がされています。破壊により遺跡が消えた面積は、調整池の広さをはるかに超えているとといいます。これらの場所に地下調整池をつくって、貴重な遺構を多数検出している現在の調整池計画地の部分に遺跡の存在を示すモニュメントをつくっていく方法も一考です。そのためには経費の何もかもを、区画整理組合に押し付けてまちづくりを行う現在の手法では、解決できない問題があります。ここにこそ、不法造成と遺跡破壊に対して市が責任の取る場があるのではないかと考えます。この点も、今回名古屋市長に質問しています。

## 志段味のイメージを払拭する歴史のまちづくり

古代・中世の志段味は天白・元屋敷遺跡を「歴史の里」へも結びつけることで、誇りある志段味の歴史を描くことができます。古墳だけの墓場のイメージではなく、生き生きとした人間の活動を重ね合わせてこそ、現代のまちづくりに活かせるように思えます。

※ 以上は、市会各会派に天白・元屋敷遺跡について取り上げていただくよう6月19日配布させていただいたものを下敷きに、状況の変化に対応して文章を修正したものです。